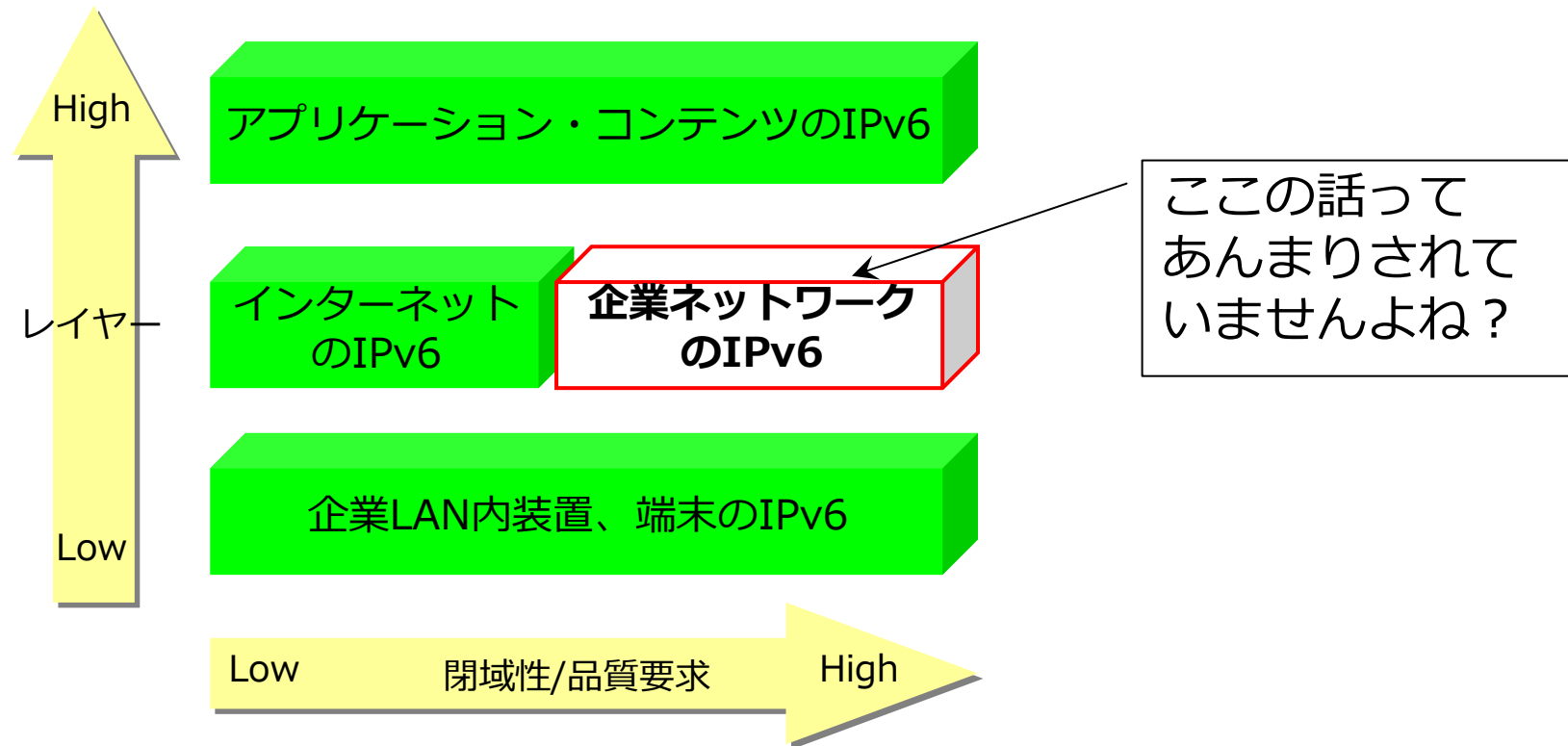


**御社のネットワークは、IPv6導入進んでいますか？
～企業ネットのIPv6導入動向と、課題～**

NTT com
新井 & 宍倉

過去のJANOG Meetingを振り返ってみると…



・そこで今回は

「企業ネットワークにおけるIPv6導入」

についてスポットを当てます

現実

- 日経コミュニケーションさん
(2009 1/15号)の調査では…

Q1. IPv6導入検討していますか？

A. **9割**の企業が検討していない

Q2. 検討しない理由は？

- A.
- 社内システムには影響がない
 - 更改コストがかかる
 - 時期尚早と判断している

etc.

理想

- 一方で色々なところから
ガイドラインは出ている

- ・ 総務省 “電子政府システムのIPv6対応に向けたガイドライン”
- ・ 米政府 “Planning Guide/Roadmap toward IPv6 Adaption within the US Government”
- ・ JPNIC “IPv4アドレス在庫枯渇問題に関する検討報告書”
- ・ 枯渇TF “IPv4アドレス枯渇対応アクションプラン”

etc.

本当に必要ない？

● インターネット上のサービスが使えなくなる


2011年のIPv4アドレス枯渇後にはIPv6でしか提供されないサービスが出現する可能性
そのサービスが利用できないかもしれない
特に第三世界で有力なSaaSなどが出た場合は？

● 自社提供サービスの競争力が低下

IPv6しか利用できないユーザーを逃してしまう

● 新規サービス展開ができない

IPv4アドレスが払い出されない場合、急にIPv6を導入しようとしてもできない



**IPv6導入による利点というよりも（暫定対処策は色々あるにしろ）
導入しないとビジネスの継続性や拡張性に支障が出てしまう事態を
避けるというリスクヘッジの問題と考えたい**

典型的な移行シナリオ

STEP 0	STEP 1	STEP 2	STEP 3
現状	インターネット IN/OUT の到達性を確保	イントラネットの 部分的IPv6化	ALL IPv6化
<p>IPv4 インターネット</p> <p>GW</p> <p>IPv4 イントラネット</p> <p>各拠点 各拠点</p>	<p>IPv6 インターネット</p> <p>GW</p> <p>IPv4 イントラネット</p> <p>各拠点 各拠点</p>	<p>IPv6 インターネット</p> <p>GW</p> <p>IPv4 IPv4/IPv6 イントラネット</p> <p>各拠点 各拠点</p>	<p>IPv6 インターネット</p> <p>GW</p> <p>IPv6 イントラネット</p> <p>各拠点 各拠点</p>

・それぞれのSTEPで用いられる要素技術や設計の課題とは？

本セッションでは特に

インターネットに接続するWAN回線についての

- ・マルチホーム手法

拠点間イントラネットを構成する際の

- ・IPv6アドレッシング
- ・適用ネットワークサービス(IP-VPN, Internet-VPN etc)
- ・ルーティング

等について比較検討していきます